

増補 明治思想史

近代国家の創設から個の覚 醒まで

松本三之介著

〈漱石の個人主義は、理論として構成されたものでなく、また思想としても整除された体系を示すところまで成熟するには至らなかった。しかし、一人の文学者としての矜持と感性に基礎づけられた彼の思考は〉
〈国家とはつねに一定の距離を保ちつつ個人の自主自尊という自己本位の自由を保持する姿勢を貫く〉日本の近代思想史の源流と経緯を考察した『明治思想史』（96年、新曜社）の増補版。補論として書かれた「夏目漱石の個人主義―思想の構造と本質」では、漱石の思想的な特質を国家主義に対置する「個の覚醒」として捉え、その内実を大正思想へ通底する転換期の思想として位置付ける。

松本三之介
Mitsunobu Matsumoto

近代国家の創設から個の覚醒まで
The Origin and Development of the
Individual Theory of Meiji Japan,
revised.

増補 明治思想史

以文社

B6判／327頁／3700円

以文社